

飛躍する台湾産業



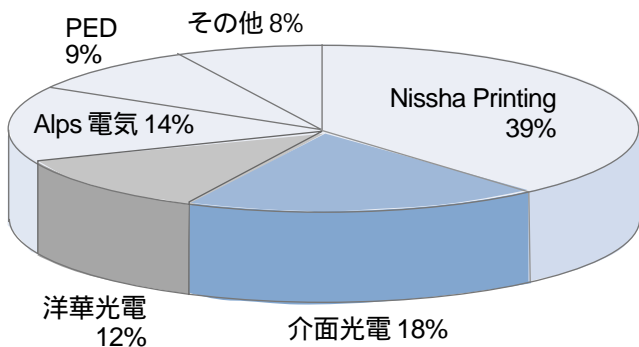
タッチパネル産業(下)

近年携帯式情報通信商品向けのタッチパネル需要が高まるにつれて、介面光電、洋華光電、義隆電子、時緯光電などの台湾タッチパネル関連メーカーの動向が大きく注目されている。介面光電と洋華光電は世界シェアを年々伸ばしている。先月号では台湾におけるタッチパネル産業概況、技術展開について説明したが、今月は台湾の各メーカーの動きを紹介する。

台湾のタッチパネル関連メーカーの概況

先月号で述べたように、台湾のタッチパネル関連企業では、その多くが川中のパネル製造と川下のモジュール生産に集中している。富士総合研究所によれば、台湾の2006年世界のタッチパネルメーカー市場占有率(図1)は、世界第2位の介面光電(J Touch)と世界第4位の洋華光電(Young Fast)で、約1/3をしめている。

図1 2006年世界大手タッチパネルメーカーの市場占有率



注) PED : Panasonic Electronic Device
出所) 富士総研

元々、台湾のタッチパネル産業は中小・中堅が主導であったが、市場の成長とともに台湾の大手企業の参入が増えている(表1)。例えば、時緯には仁宝集団(Compal)が約35%を出資、禾伸堂(HolyStone)は禾瑞亜に20%を投資。義発には義隆光電が約40%を投資する。以下、上場企業2社()と店頭登録企業4社(~)を紹介する。

勝華科技(Wintek)

勝華科技は4、5年前から大手PDAメーカーPalmへタッチパネルを出荷。現在多くの大手PDAメーカーの認証を取得済みである。同社はモジュールのみではなく、その川上に当たるITOガラスの生産を行う数少ないメーカーである。

同社はITOコーティング技術、タッチパネル量産能力を有している。現在の顧客であるNOKIA(CSTN)、SAMSUNG(TFT-LCD)、HTC(TFT-LCD)、Apple(iPod)などモバイル大手の売上の成長並びにモバイル機器のタッチパネル採用率が高まることで、同社のタッチパネル事業も大きく成長すると期待される。

義隆電子(ELAN)

義隆電子はタッチパネル向けICチップの特許をもつ。世界の四大タッチパネル向けICメーカーの1つであり、且つ、ノートブック用タッチパネルの三大サプライヤーの1社でもある。

傘下のタッチパネル部品メーカー義発(義隆が約4割を出資)は現在、タッチパッド(Touch Pad)などの関連アプリケーション商品を生産している。今後も静電容量式タッチパネルに投資の計画があり、これにより、IC、パネル、パッドとタッチパネルの主要なパートを押さえることが出来る。

義隆電子は日本の抵抗器、センサーなどの電子部品メーカーKOAの子会社K-Techを2001年に合併している。K-techはこれに先立つこと1999年に



Logitech のタッチパネル部門を買収しており、義隆電子は、K-Tech の買収を通じてタッチパネル電解 IC 関連技術とパテントを入手した。

禾瑞亜 (EMPIA)

義隆電子と同様、タッチパネル電解 IC メーカーである。禾伸堂の傘下であり、今年4月に店頭登録した。

禾瑞亜は二つの製品ラインを持ち、その一つがタッチパネル電解 IC である。当社は静電容量式、光学式、超音波式などのタッチパネル技術を有しており、各タッチパネルメーカーと提携し、自社が生産した電解 IC を提供し出荷する。DIGITIMES によれば、当社 2007 年 10 月までの売上げの累計は 2006 年同期比およそ 7 割成長した。

介面光電 (JTouch)

神達電腦 (MITAC) 傘下の介面光電はスマートフォン、PND、PDA などの商品を生産する。顧客は NEC、Sharp、Casio などが当社の主要顧客とみられている。現在月産能力は 400 万枚で、来年 7 月には第三工場が稼働する見通しとなっている。

日本市場でのシェアは第二位で、Nissha Printing の次である。当社は 2006 年の売上が NT11.31 億元、税前利益は NT0.71 億元。一方、2007 年は Q3 ですでに売上が NT12.47 億元、税前利益も NT1.94 億元と、昨年度の年間売上、利益を上回っている。

洋華光電 (Young Fast)

任天堂ゲーム機の Nintendo- DS の主要なサプライヤー (第三位) として、パネルを提供している。このほか、PDA 商品の実績も有している。

時緯光電 (SWENC)

仁宝 (Compal) が 35% を出資する。生産キャパシティで、台湾メーカーで第 3 位にランクする時緯は、小型タッチパネルを主に生産している。2006 年の売上が NT7.37 億元。一方、2007 年 Q3 までの売上が NT8.94 億元で、税前利益が 2006 年を超えて NT1.9 億元に達した。

過去 2 年間は、同じく仁宝が投資したパネルメーカーである統宝光電 (TPO) に対しての出荷比率が約 6 割以上に達しグループの生産拠点としての位置付けが大きかったが、2007 年前半に SAMSUNG から大口受注を獲得し外販が 4 割と一挙に伸る一方で、SAMUSUNG への出荷比率が凡そ 4 割になり、統宝への比率は 27% に低下した。

表 1 各関連メーカーと大手株主、親会社との関係

企業名	製品	グループ
安可	ITO ガラス	銖徳
義発	電解 IC	義隆
禾瑞亜	電解 IC	禾伸堂
介面	タッチパネルモジュール	神達
洋華	タッチパネルモジュール	広達
時緯	タッチパネルモジュール	仁宝
奇菱	タッチパネルモジュール	奇美
富晶通	タッチパネルモジュール	富士通、中環

出所) DIGITIMES、NNA (2007/11)